

## 紙ヒコーキが神になった話

基礎医学のある講座の教授が期末試験の後に、A4用紙で紙ヒコーキを作ってきて、一番遠くに飛んだヒコーキを作った学生さんは追試験を免除し、一位のヒコーキを作った学生さんは大学を卒業後、純金の箱を用意し、そのヒコーキを納めて、神棚に飾り家宝として子子孫孫にまで伝えなさいと言われたそうです。試験の後、実習室にて作製した紙ヒコーキを10人ごとに飛ばしました。その結果、最も遠くに飛んだのは矢じりの様に細長く折った紙ヒコーキで、実習室の反対の壁近くまで飛びました。一位の学生は追試験を目出度免除されたそうです。最近、一位の学生が m3.com に学生時代の思い出として記事を載せていました。体育会クラブの仲間と色々紙ヒコーキを作製してみて、最も遠くに飛んだのが、細長い紙ヒコーキだったそうです。努力の甲斐があったのですが、この学生は教授の意図したことを残念ながら理解していなかったようです。

**教訓** 一位になった紙ヒコーキは学生に幸運をもたらし、紙ヒコーキが神ヒコーキになったのです。創世記には神が人間を創造したと記載されていますが、逆に人による神の創造方法を教えているのです。

志賀直哉の短編小説「小僧の神様」は見事に人による神の創造を表現しています。